



心理的安全性の高い学級で育つ

学校長 村越 新

「心理的安全性」とは、メンバーどうしが健全に**意見を戦わせ**、生産的でよい仕事をするために力を注げるチームや組織のこと。地位とか経験に関わらず誰もが**意見を言い合え**、率直に疑問を**聞き合える**のが「心理的安全性」が高いという状態を意味します。

本校では今年度、「**心理的安全性が高い**」学級五か条として、以下の5つを掲げて取り組んできました。

- ① クラスの友達が、朝や帰りに、**あいさつ**をしてくれる
- ② クラスの友達が、気持ちの**良い言葉**を使ってくれる
- ③ クラスの友達が、分からない勉強を**教えてくれる**
- ④ クラスの友達が、発表を黙って**聴いてくれる**（良い発表には拍手してくれる）
- ⑤ クラスの友達は、**失敗**しても笑ったり**馬鹿**にしたりしない

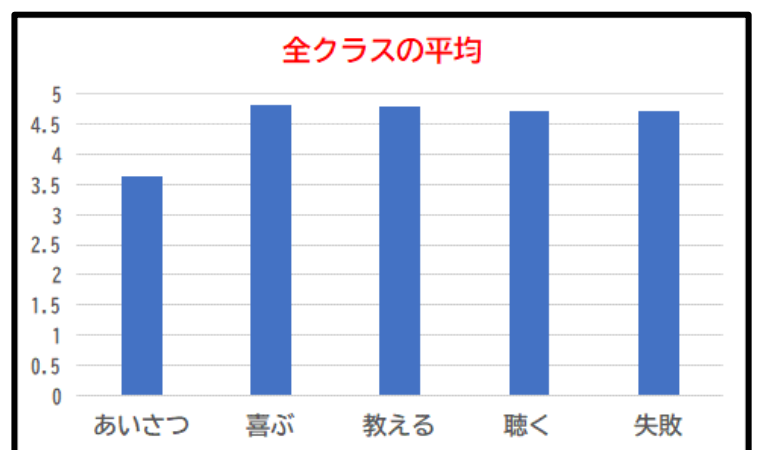
一年間を振り返り、各学級の「心理的安全性」を**児童の自己評価**を元に5段階で確認してもらいました。年度当初よりレベルを上げたり、焦点化したりした以下の5つの内容で評価しました。（3月12日実施）

クラスの友達は

- ① **紙等を配布する時「〇〇さんどうぞ」「〇〇さんありがとう」と言ってくれる。**
- ② **良いことをした時にほめたり喜んだりしてくれる。**
- ③ **「教えて」と言えば勉強を教えてくれる。**
- ④ **発表や学び合いで自分の話を、よく聴いてくれる。**
- ⑤ **失敗やできないことを笑ったり、馬鹿にしたりしない。**

評価基準 5（ほぼ全員「そう思う」） 4（半分以上） 3（「そう思う」半数）
2（「そう思う」が半数以下） 1（ほとんどがそう思っていない）

各クラスの5段階評価を平均して、最も高かったのは「**クラスの友達は、良いことをした時にほめたり喜んだりしてくれる**」でした。全クラスの平均が**4.8**です。扇っ子のほとんどが、友達にほめてもらったり、喜んでもらったりしているのです。



「九九検定」から

毎日校長室で行っている九九検定もあと少しとなりました。毎日毎日、

のべ 20 人以上の二年生が訪れていたことを思うと、寂しい気がしています。

さて、有名な話ですが、九九を**覚え間違える子**にはある特徴があります。それは言い間違えたり答えが出てこなかったりしたときの、大人の反応にあります。

例1 子「ろく・しち、・・・」 大人「よく考えなさい！」

「覚えなさい」と言われて来たのに「考えなさい」と言われました。**指示が変わる**と脳は戸惑います。これは暗唱なので、考えさせることはありません。教えてあげればいいのです。「42です」と。

例2 子「ろく・しち、48」 大人「48じゃないでしょ」

脳の特徴がよく分かる結果が待っています。自分で「48」と言い、大人も「48」と言ったので「48」を強く覚えてしまうのです。何度も耳にすると覚えたくなくても**覚えてしまう**のです。間違った情報はなるべく与えない、これも脳のためです。

九九の例以外にも、私たち教育者が意識している「脳の特徴」があります。

例3 大人「廊下を走るな」「暴力はダメ」「置きっぱなしにしないこと」

脳は**非定型を覚えるのが苦手**です。「走るな」と言われると「走る」が記憶されます。だから我々は「歩きます！」と肯定語で指導します。「暴力はダメ」を毎日のように言われ続ける子ほど、暴力を行います。脳に「暴力」が刻まれてしまうからです。「置きっぱなし」ではなく、「持って帰る」と分かりやすく覚えやすい言葉の方が脳には残ります。

例4 大人「早くしなさい」「ちゃんとしなさい」「真面目にやりなさい」

あいまいな言葉は脳を混乱させます。「早くとは?」「ちゃんととは?」「真面目って?」と。「〇時〇分まで」「あと1分」「昨日やったとおりにやりなさい」「〇〇と同じやり方をしなさい」など分かりやすく具体的に言った方が脳と行動はつながりやすいのです。

奉仕作業

六年生が卒業前に「**お世話になった校舎をきれいにする**」活動に取り組んでくれました。昇降口、廊下、階段、特別教室、トイレ、体育館などなどを45分間かけてきれいにしてくれました。「生活科室を掃除したけど、二年生が**いつもきれいに使っていてありがたかった**」「いろんな教室に行って、とても**懐かしかった**」「1階のトイレに行ったら、懐かしい**思い出**がよみがえってきた」など、意外な感想を聞かせてくれました。

